

☆世界同時革命・世界革命戦争  
世界プロレタリア独裁  
共産主義勝利！  
共産主義者同盟

11月10日  
第49号  
編集人 岸 明  
一部 3.0円

# 蜂起

蜂起社  
発行所 蜂起社  
読者区尾5010の1  
電話 二番七三七  
TEL 03 440 0832  
(新宿) 東京 1 6 1 2

■ 11月19日 4・28防法裁判 PM 1時 701号 法廷  
■ 12月7日 法制審議会紛争 正后 霞ヶ関  
■ 12月10日 第八回 アヤメ裁判 PM 1時 703号 法廷

# 建党.建軍.先武闘—共産主義政治.総蜂起

## なぜ脱走分子は平気で 地下正規軍を捨てられるのか

地下正規軍を捨てられるのは、脱走分子が、地下正規軍の理想や目標を、自分だけの私利私欲のために、裏切っているからである。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

## 重点攻撃—自衛隊直接攻撃 総蜂起—自衛隊全面解体

自衛隊は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。自衛隊は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

# 地下正規軍の強化と重点攻撃 全党全軍の共産主義思想の深化

地下正規軍の強化と重点攻撃は、全党全軍の共産主義思想の深化を必要とする。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

地下正規軍の強化と重点攻撃は、全党全軍の共産主義思想の深化を必要とする。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

地下正規軍の強化と重点攻撃は、全党全軍の共産主義思想の深化を必要とする。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

地下正規軍の強化と重点攻撃は、全党全軍の共産主義思想の深化を必要とする。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

地下正規軍の強化と重点攻撃は、全党全軍の共産主義思想の深化を必要とする。地下正規軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

## 全党全軍の政治軍事化 先武闘—共産主義政治

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

全党全軍の政治軍事化は、先武闘—共産主義政治を必要とする。全党全軍は、社会主義革命の道に歩む者であり、脱走分子は、社会主義革命の道から逸脱した者である。

11・19 ▲71年10・21練馬基地  
降裁判  
11・21 ▲72年10・21裁判  
12・21 ▲北熊本爆取第一回裁判

11・19 ▲71年10・21練馬基地  
降裁判  
11・21 ▲72年10・21裁判  
12・21 ▲北熊本爆取第一回裁判

# 軍の敵、反党分子批判

## 過渡期世界論の昇天 観念空論主義

「過渡期世界論」は、1973年11月10日、第49号(2)に掲載された。これは、過渡期世界論の昇天、観念空論主義を批判するものである。この論文は、過渡期世界論の理論的基礎を徹底的に批判し、その虚偽性を明らかにしている。特に、過渡期世界論が主張する「世界は過渡期にある」という主張を、歴史的事実と照らし合わせて批判している。また、過渡期世界論が「反党分子」を批判している点についても、鋭く反論している。この論文は、読者に過渡期世界論の真実を知らしめ、その虚偽性を認識させることを目的としている。

# 党建設の到達と 青年同盟の任務

(上)

序  
我々の党は、1973年11月10日、第49号(2)に掲載された。これは、党建設の到達と青年同盟の任務を論じている。この論文は、党の建設がどのような段階に達しているかを分析し、青年同盟が果たすべき任務を明確にしている。特に、党の建設が「到達」したかどうかを判断する基準を提示している。また、青年同盟が党の建設にどのように貢献できるかを論じている。この論文は、党の建設に関心のある読者に、具体的な指針を提供している。

1973年11月10日  
(第49号(2))

党の建設は、我々の党にとって最も重要な課題である。この論文は、党の建設がどのような段階に達しているかを分析し、青年同盟が果たすべき任務を明確にしている。特に、党の建設が「到達」したかどうかを判断する基準を提示している。また、青年同盟が党の建設にどのように貢献できるかを論じている。この論文は、党の建設に関心のある読者に、具体的な指針を提供している。

## 主体なき空文句 ケチつけ批判

この論文は、主体なき空文句を批判している。特に、「ケチつけ批判」として知られている。この論文は、空文句が党の建設にどのように悪影響を及ぼしているかを論じている。また、空文句を批判するための具体的な方法も提示している。この論文は、読者に空文句の危険性を認識させ、党の建設に貢献するための具体的な行動を促している。

## 先武闘を闘う労働者 兵士委員会を建設せよ

この論文は、先武闘を闘う労働者兵士委員会を建設することを主張している。この論文は、労働者がどのようにして自己防衛能力を高め、社会正義のために闘争できるかを論じている。また、兵士委員会の具体的な役割と任務も提示している。この論文は、労働者に闘争の勇気と行動力を与えることを目的としている。

## 共産主義青年同盟

この論文は、共産主義青年同盟の役割と任務を論じている。この論文は、青年同盟が党の建設にどのように貢献できるかを明確にしている。また、青年同盟の活動の具体的な方向性も提示している。この論文は、青年同盟のメンバーに、自らの役割を認識させることを目的としている。

この論文は、党の建設がどのような段階に達しているかを分析し、青年同盟が果たすべき任務を明確にしている。特に、党の建設が「到達」したかどうかを判断する基準を提示している。また、青年同盟が党の建設にどのように貢献できるかを論じている。この論文は、党の建設に関心のある読者に、具体的な指針を提供している。

この論文は、先武闘を闘う労働者兵士委員会を建設することを主張している。この論文は、労働者がどのようにして自己防衛能力を高め、社会正義のために闘争できるかを論じている。また、兵士委員会の具体的な役割と任務も提示している。この論文は、労働者に闘争の勇気と行動力を与えることを目的としている。

この論文は、共産主義青年同盟の役割と任務を論じている。この論文は、青年同盟が党の建設にどのように貢献できるかを明確にしている。また、青年同盟の活動の具体的な方向性も提示している。この論文は、青年同盟のメンバーに、自らの役割を認識させることを目的としている。

蜂起の定期購読を！  
12回 500円 (開封)  
24回 1000円  
購読社03(448)0832、(振替)東京1612

世界暴力革命論  
さくら徳二者  
定価八百円

この論文は、(2)面から続く。これは、前掲の論文の続きであり、党の建設に関する具体的な指針や活動の方向性をさらに詳しく論じている。読者は、この論文を通じて、党の建設の重要性を再認識し、自らの役割を明確にすることができる。